

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

徳島県立川島中学校  
「学力向上実行プラン」

- ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業の実践
- 6年間を見通した計画的・継続的な中高一貫教育の推進

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 田中 侑二	委員 教頭: 藤本智美	社会科主任: 三橋博之
	国語科主任: 笠井大輔	理科・教務主任: 片岡弘己
	数学科主任: 石田靖奈	英語科主任: 板東照美

校長

石丸 憲治

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ICT(タブレット・電子黒板・デジタル教科書)を活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業に取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

中高合同の授業見学や学習状況調査など、さまざまな機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度はまじめで、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得に一定の成果が見られる。 ●宿題などの提出物にきちんと取り組めないなど学習習慣が身につけられていない生徒がいる。	・学習活動を支える基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ・週末課題や定期考査時の提出物に計画的に取り組む、期限を守ってきちんと提出することができる。	・中高合同の授業見学と研究協議によって、授業力を高める。 ・定期考査前の「質問タイム」と後の「補充学習」の内容を工夫し、充実させる。 ・至誠ノートの提出率を向上させ、学習の計画を立てて振り返ることを習慣にさせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個人や班の考えをまとめて表現し、相手にわかりやすく伝える手段や方法を身につけてきている。 ●基礎的・基本的な知識・技能は習得していても、それらを活用できず、課題の解決につなげていない生徒がいる。	・学校でのさまざまな活動において、生徒同士が学び合い、他者と協働しながら課題を解決することができる。 ・確かな思考力・判断力を持ち、豊かな表現力をもとに自分の考えを的確に表現することができる。	・授業や総合的な学習の時間などで積極的に新聞を取り入れ、NIE学習を学校全体で推進する。 ・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業を小单元ごとに1回以上実践する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○身近にいる高校生の姿に刺激を受けながら、落ち着いた環境で、じっくりと学習に取り組むことができている。 ●学習に対して受け身な生徒も多く、見通しをもって主体的に学習に取り組むことに課題がある。	・自主勉ノートを自分なりに工夫したり、各種検定を積極的に受験したりするなど、自ら意欲的に学ぶことができる。 ・高校生や高校卒業後の自分の姿を想像し、十分な学習時間を確保して、主体的に家庭学習に取り組むことができる。	・生徒に外部検定試験を年間1回以上受験するよう促し、学習の支援をしていく。 ・中高一貫校用の模試の成績を分析して、授業や面談などで活用し、大学入試まで見据えた学習指導を行う。 ・デジタル学習ツールを利用して、家庭学習の定着を図る。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

